

WilComm

WilCommAS Ver.8.03 + WilCommPC Ver.4

Training Manual Lesson-3 iSeries 設定の基礎

Manual No - MTRN043 (Last Update 2007/07/09)



本書は、ウィルコムを WilCommAS Ver.8.03 + WilCommPC Ver.4 で初めてお使いになるシステム管理者向けトレーニング・マニュアルです。

Lesson-3 では、iSeries 上の基本設定について解説しています。

(目的)

1. ウィルコムの基本動作、データ・フローを理解する。
2. ウィルコムのユーザ登録ができるようになる。(ウィルコムのセキュリティ機能を理解する)
3. サブスクライバの役割を理解する。
4. スペシフィック・コードの意味を理解する。
5. ウィルコム用の OUTQ 作成ができるようになる。
6. ウィルコム用 OUTQ 監視が正常であるかを確認できるようになる。

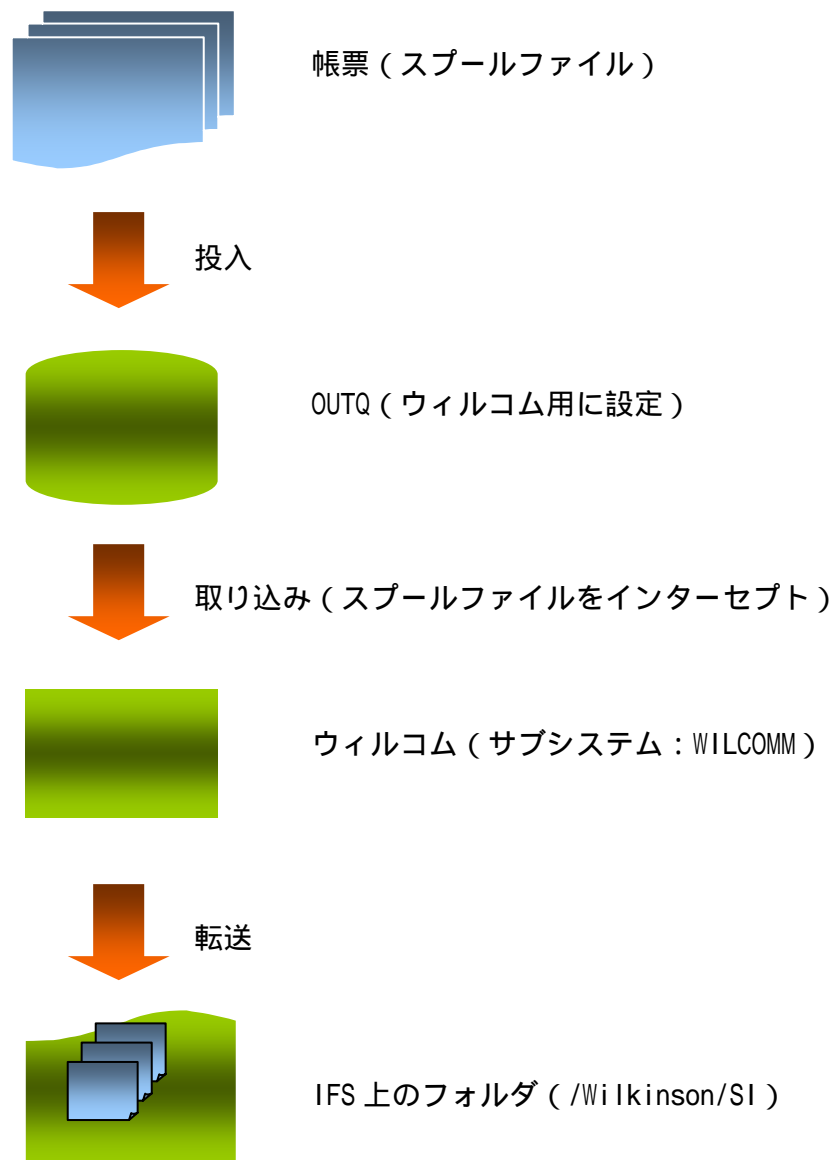
(目次)

1. ウィルコム処理概要.....	3
2. ウィルコム・ユーザ登録.....	5
3. ウィルコム OUTQ の構成概念	10
4. サブスクライバ登録	11
5. 監視対象 OUTQ 作成(ウィルコム OUTQ)	22
6. 監視対象 OUTQ 作成の確認	29
7. 監視対象 OUTQ 動作確認	32

[1. ウィルコム処理概要]

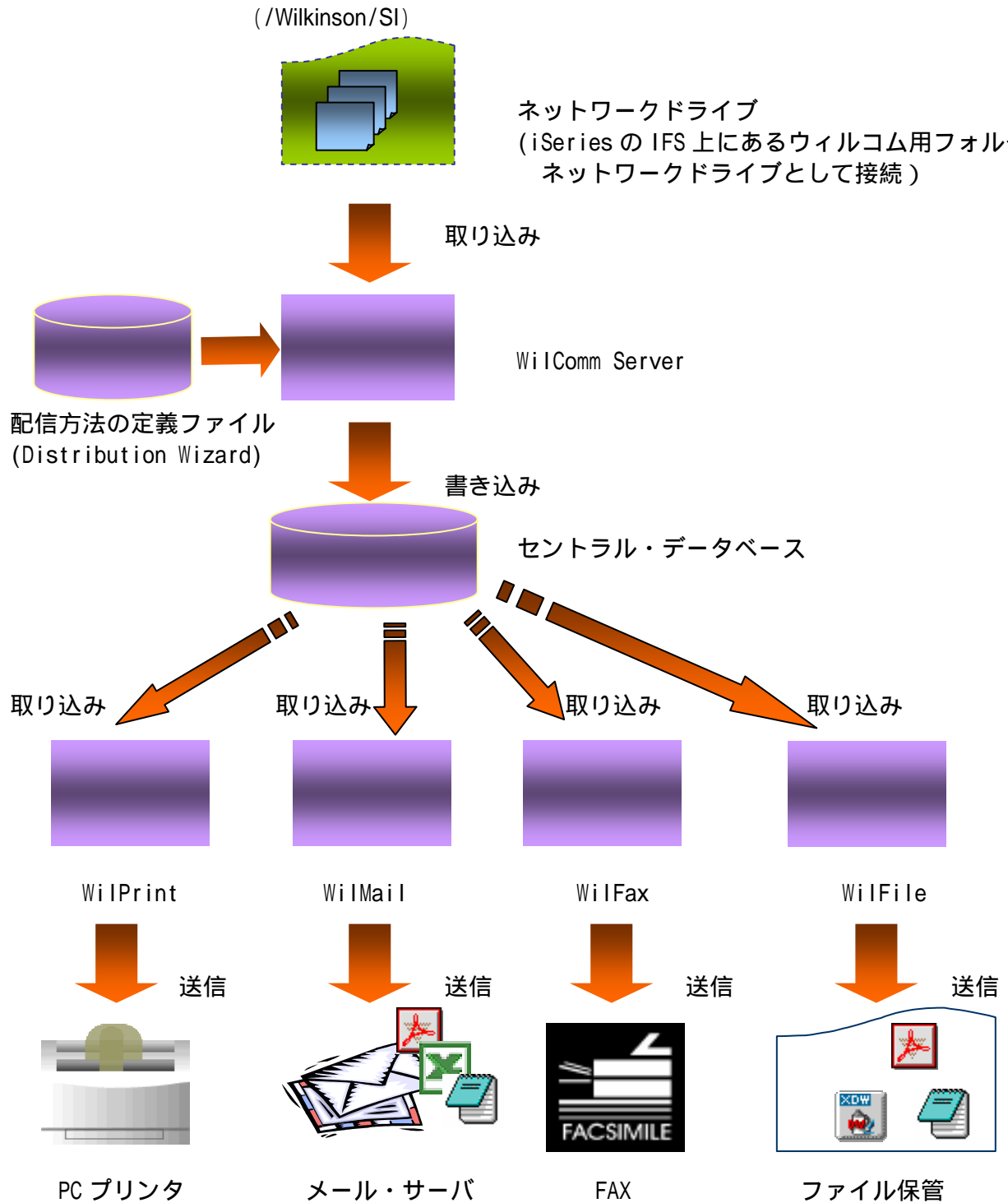
ウィルコムは、iSeries で作成された帳票を配信するためのシステムです。配信方法として、PC プリンタ印刷、e-mail、FAX、ファイル保管を選択することが可能です。

iSeries での送信処理



ウィルコムに監視対象として設定された OUTQ をサブシステム : WILCOMM が監視しています。OUTQ にスプールファイルが投入されると、ウィルコムがスプールデータを取り込んで PC サーバへ送るためのフォーマットに整形します。整形されたデータは、iSeries の IFS 上にありますウィルコム用フォルダへコピーされ、この際に EBCDIC から ASCII へのコード変換が行われます。

PC Server での送信処理



iSeries の IFS 上のウィルコム用フォルダが PC サーバ側でネットワークドライブとして割り当てられています。WilComm Server というプログラムが、常時このネットワークドライブを監視しています。iSeries 側の処理でネットワークドライブにファイルが作成されると、これを PC サーバ側に取り込み、PC サーバ側に設定された配信方法を定義したファイルを検索し、条件が一致する定義があれば、これに基づいた配信処理手順がセントラル・データベースに書き込まれます。WilPrint、WilMail、WilFax、WilFile の各プログラムは、セントラル・データベースを常時監視していて新しいデータが追加されると、それを取り込んで処理を行います。

[2. ウィルコム・ユーザ登録]

ウィルコムの管理画面の表示方法は、「QSECOFR」でサインオン画面よりログインし、コマンドラインで「GO W」と入力して実行キーを押してください。

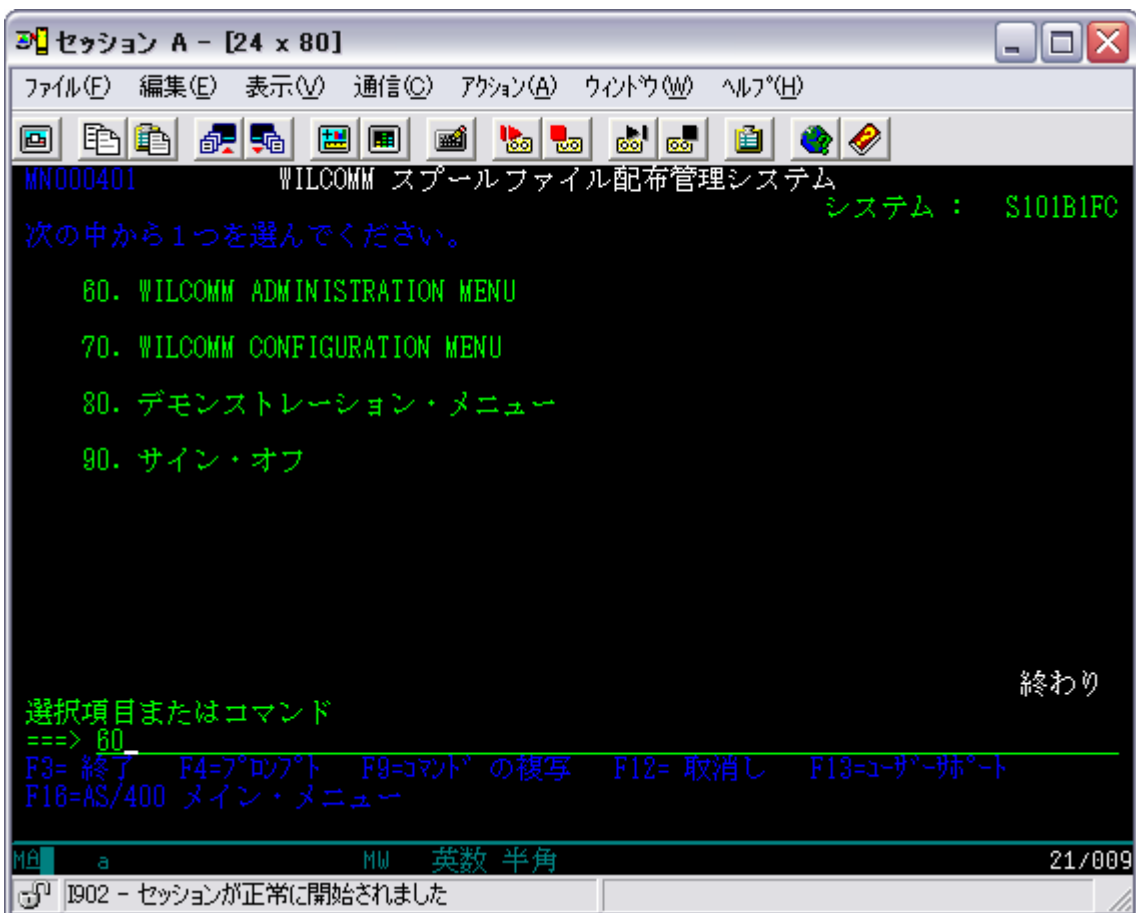
「WILCOMM スプールファイル配布管理システム」メニューが表示されます。

(以下、WILCOMM メインメニュー)

ウィルコムのオンライン機能を使用するユーザプロファイルの登録

ウィルコムのオンライン機能を使用するには、ユーザプロファイルをウィルコムの管理下に登録する必要があります。

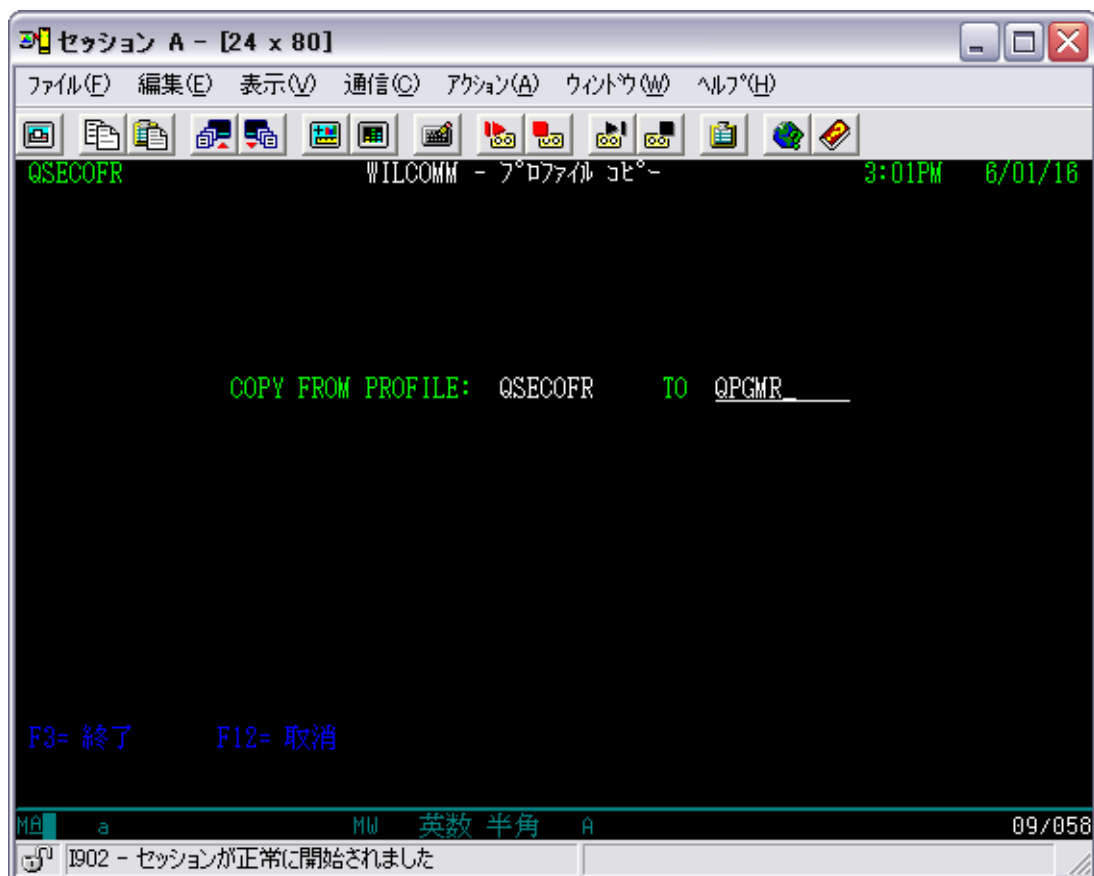
Wilcomm メインメニューで次ページキーを押し、以下の画面から「60.WILCOMM ADMINISTRATION MENU」を選択し実行キーを押します。



「12.ユーザー・プロファイル・メンテナンス」を選択します。



新規に登録するユーザプロフィールを入力しユーザプロフィール



次の画面が表示されたら、ユーザプロフィールの登録は完了です。

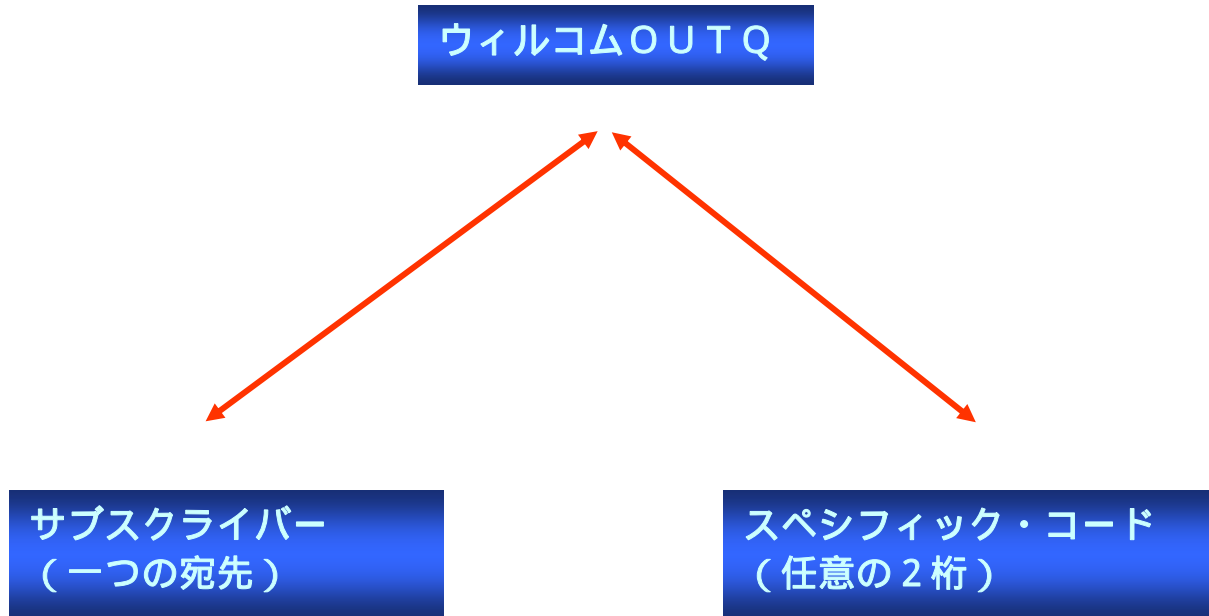


必要に応じて登録内容を修正します。該当ユーザプロファイルにカーソルを合わせて、オプション = 1 (全項目変更) で変更モード表示させます。



他のユーザプロファイルへの権限指定や、「GO W」で表示されるメニューをユーザプロファイル単位に設定することが可能です。

[3. ウィルコム OUTQ の構成概念]



ウィルコム OUTQ は、図のようにサブスクライバー(一つの宛先)とスペシフィック・コード(任意の2桁コード)がリンクして作成、維持・管理されています。

コマンドラインから「CRTOUTQ」で作成された OUTQ はウィルコムの監視対象とはなりません。

図のように、ウィルコム OUTQ には必ず一つの宛先(サブスクライバー)をリンクすることになりますが、作成する OUTQ がリンクする宛先にしか配信できなということではありません。

ここでは、iSeries 上のウィルコム OUTQ 作成のルールとして認識してください。

ウィルコムは配信の際の宛先を様々な方法で決定することができます。その中の一つの方法としてウィルコム OUTQ にリンクしている宛先に配信する方法が選択できます。

ウィルコムの宛先決定方法は、他にスプールデータを読み取る方法や PC サーバ側のアドレス帳を使用する方法があります。

ウィルコム OUTQ にリンクした宛先に配信する機能を使用しない場合、サブスクライバの宛先をあまり意識する必要はないかも知れません。

あくまでも、ウィルコム OUTQ を作成するために、ルールとして図のような関係があるということを認識していただければ、ここでは十分です。

(注-1)ウィルコム OUTQ に iSeries 専用プリンタを接続しないでください。スプールはウィルコムで処理される以前にプリンタに出力されてしまいます。

[4. サブスクライバ登録]

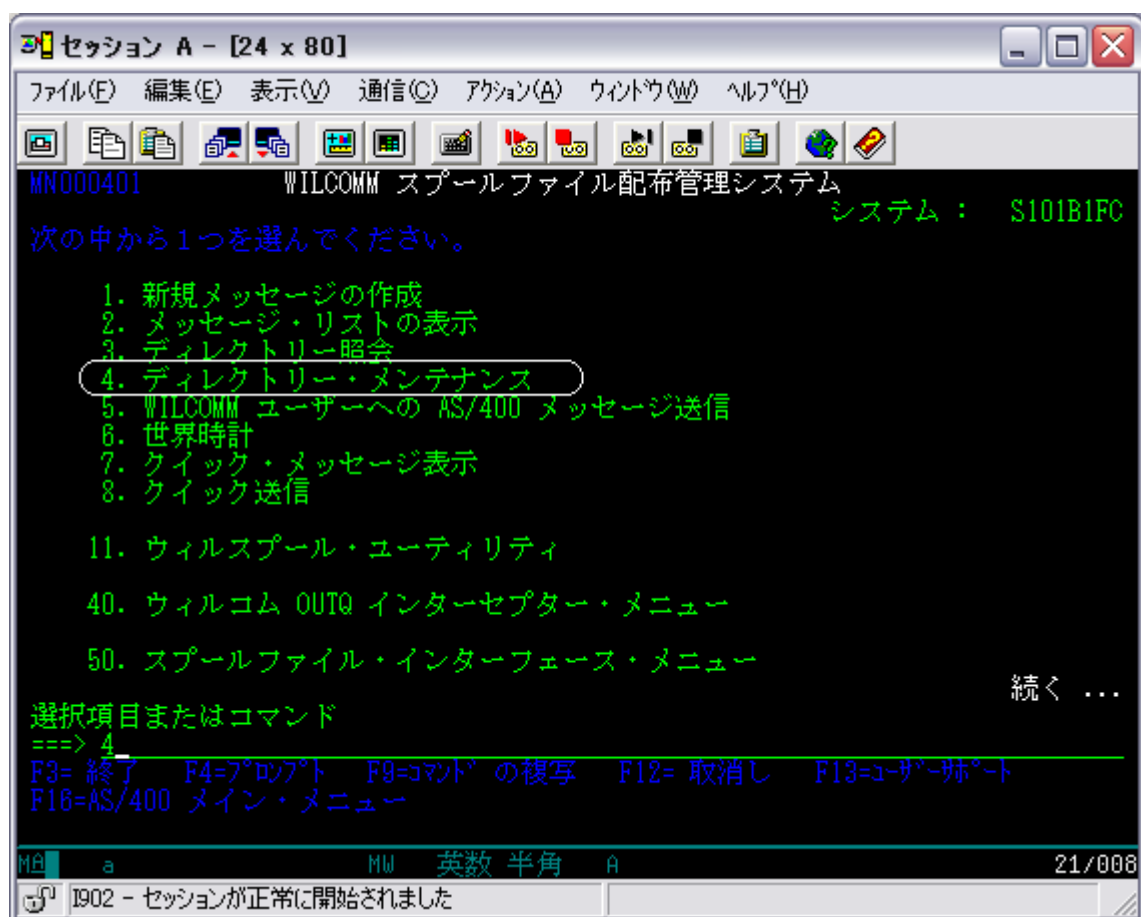
サブスクライバとは...

送信方法と送信先アドレス等の情報を指定(保管)する宛先情報の事です。

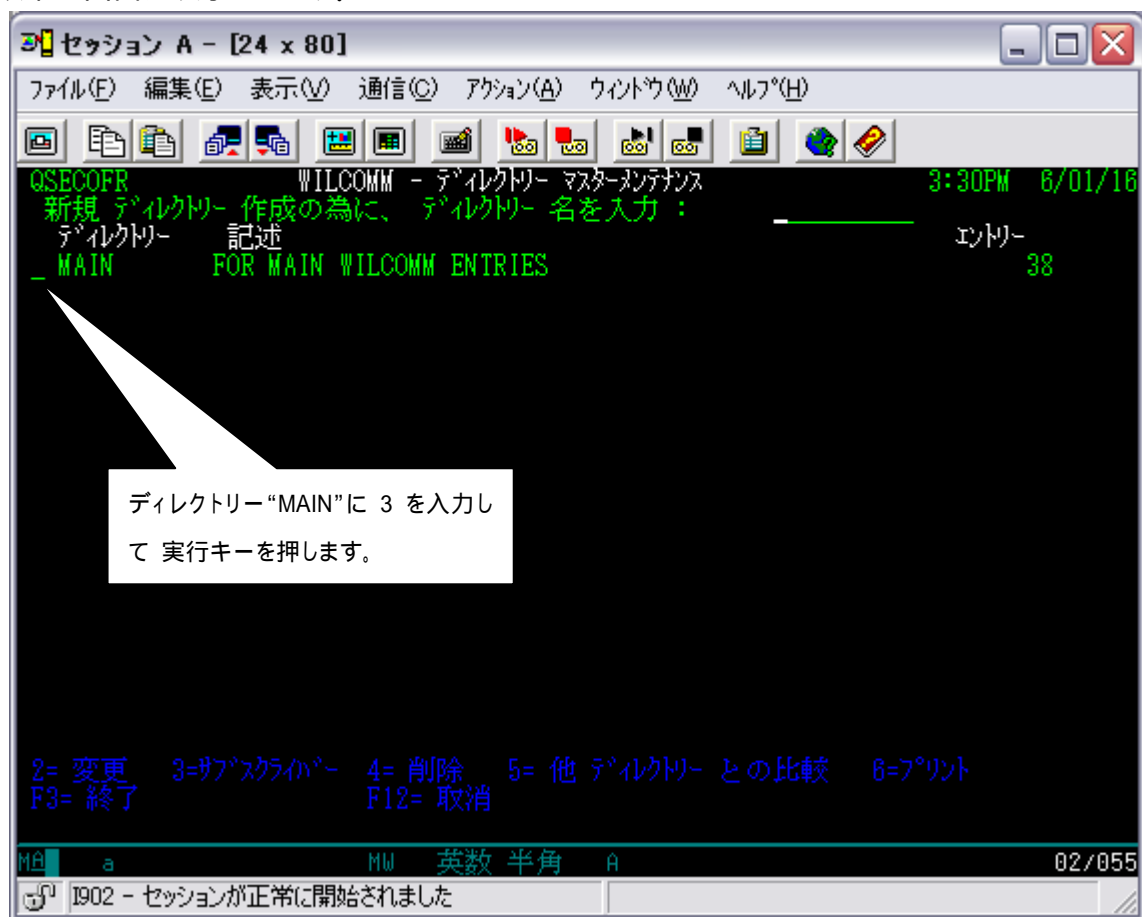
次のステップでウィルコム OUTQ を作成する際に、OUTQ とリンクさせるための宛先を登録してみましょう。

ウィルコムの管理画面の表示方法は、「QSECOFR」でサインオン画面よりログインし、コマンドラインで「GO W」と入力して実行キーを押して Wilcomm メインメニューを表示させます。

以下の画面から「4. ディレクトリー・メンテナンス」を選択し実行キーを押します。



以下の画面が表示されます。



ディレクトリーに登録されている「サブスクライバ」の一覧が、以下の様に表示されます。



上記明細は、1行1宛先となります。

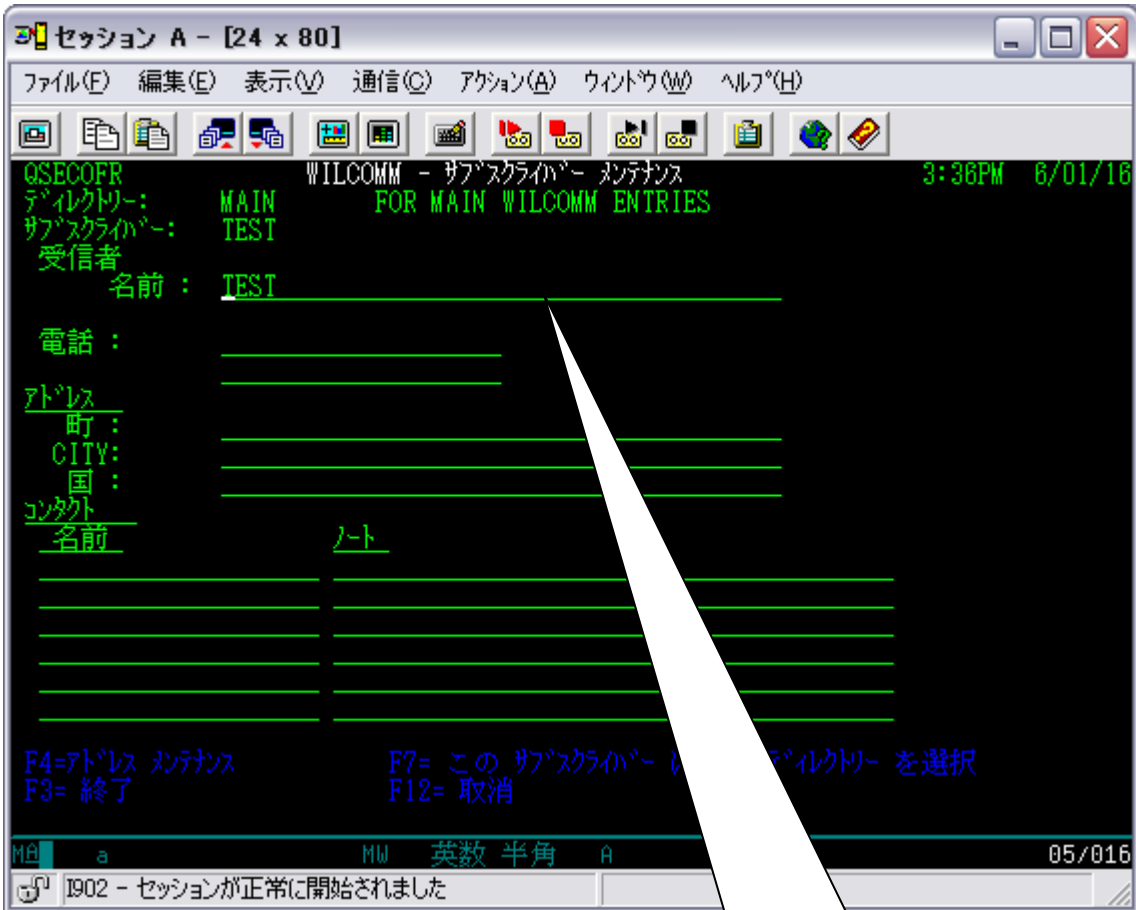
この一覧では、各宛先に登録されている宛先が「FAX 番号」なのか「e-mail アドレス」なのか「プリンタ名」なのか「保管パス」なのかは解りません。

サブスクライバを登録する場合のサブスクライバ名は、宛先の種類が解る命名規則をお勧めします。

(例)FAXxxxxx / MAILxxxxxx / PRTxxxxxx / FILExxxxxxx etc.

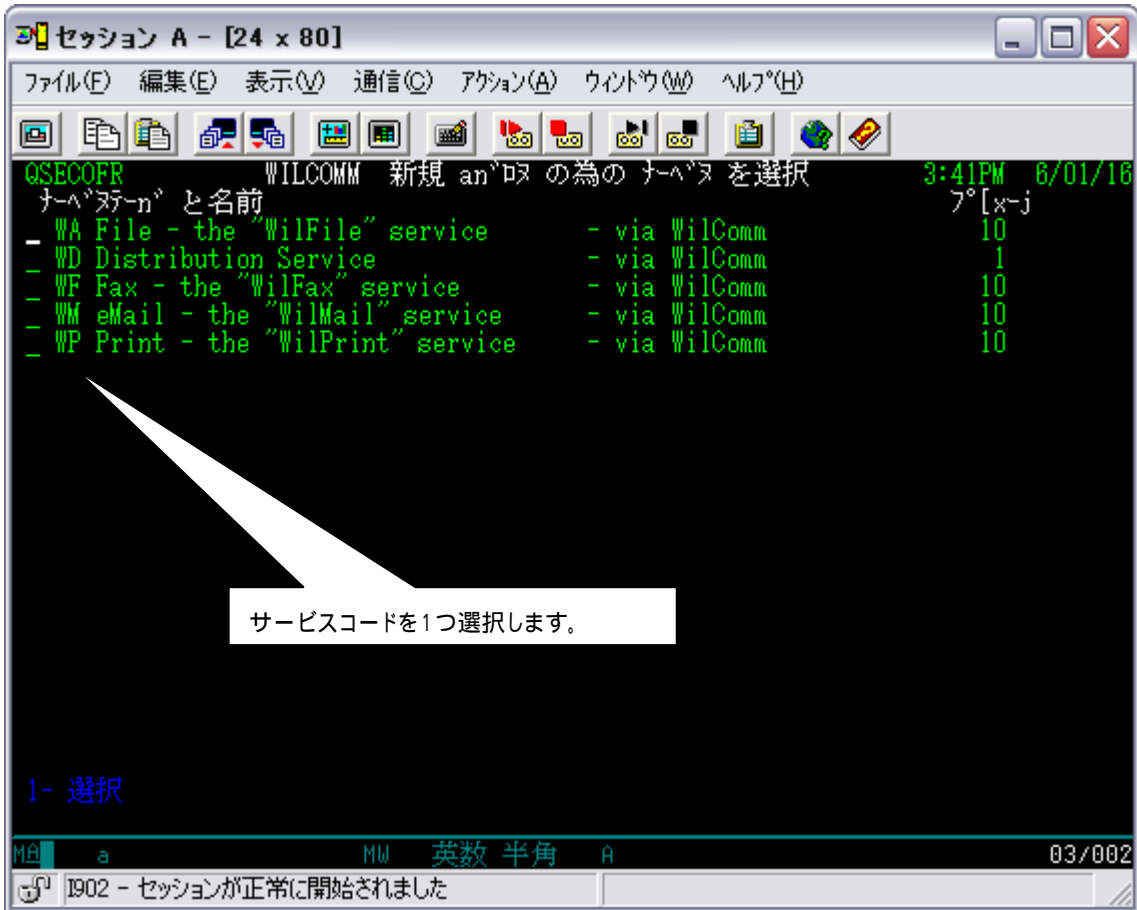
(注)「サブスクライバ」名と「監視対象 OUTQ」(ウィルコム OUTQ)名を同じ名称にしておけば、管理しやすくなるかも知れません。

以下の画面が表示されます。



「サブスクライバ」を説明するコメント入力欄です。前画面での一覧表示における「ノート」部分ですので、宛先の種類やリンクさせようとしている OUTQ 名等を入力しておけば、管理しやすいかも知れません。(以外の項目は特に入力する必要ありません。)

サービスコード選択画面が表示されます。



サービスコードとは、登録しようとしている宛先の種類を区別するコードです。

ここで指定したサービスコードで次の宛先入力画面が異なります。該当するサービスコードにオプション = 1を指定して実行キーを押します。

WD：複数の送信方法が混在しているような場合に指定します。

この場合、指定する宛先はありません。

WA：ファイル保管する場合に指定します。

次画面でファイル保管先パス入力画面が表示されます。

WF：FAXで送信する場合に指定します。

次画面でFAX番号入力画面が表示されます。

WM：Mailで送信する場合に指定します。

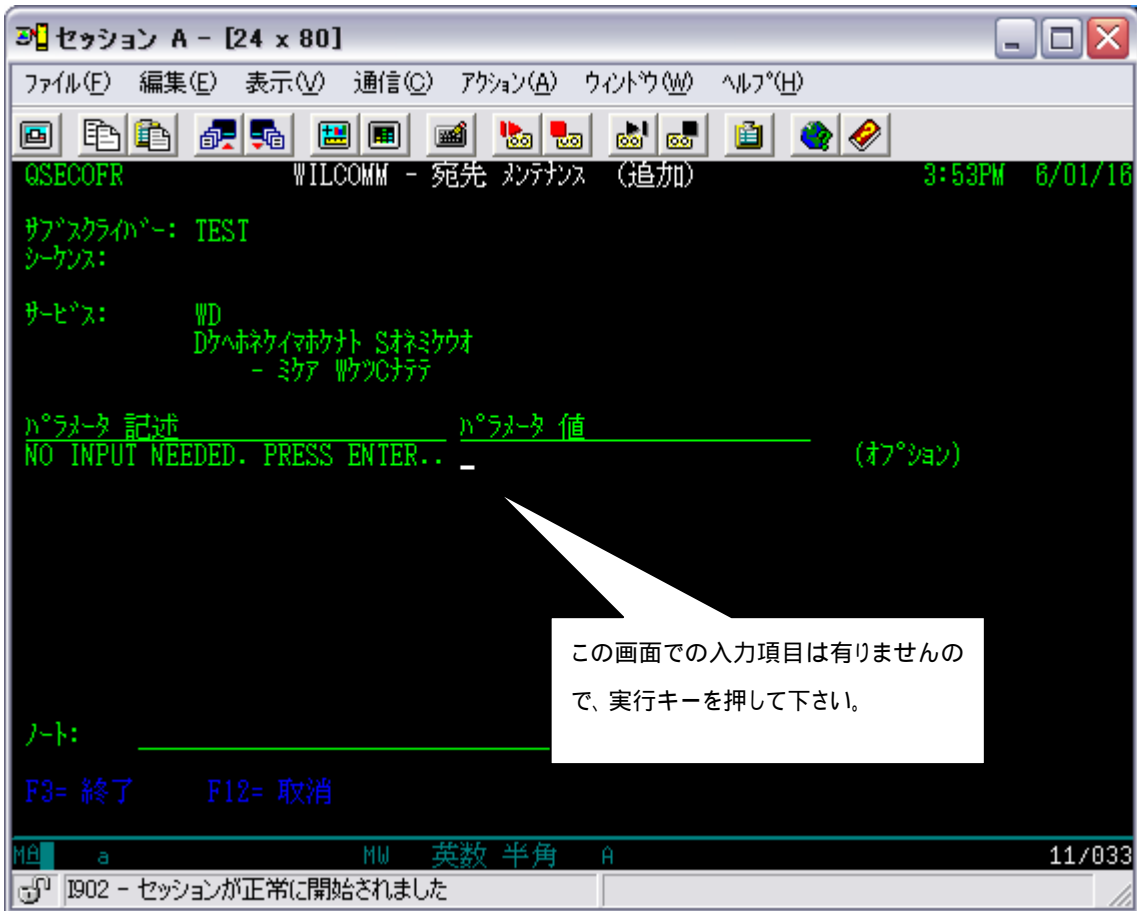
次画面でメールアドレス入力画面が表示されます。

WP：プリンタへ出力する場合に指定します。

次画面でプリンタ名入力画面が表示されます。

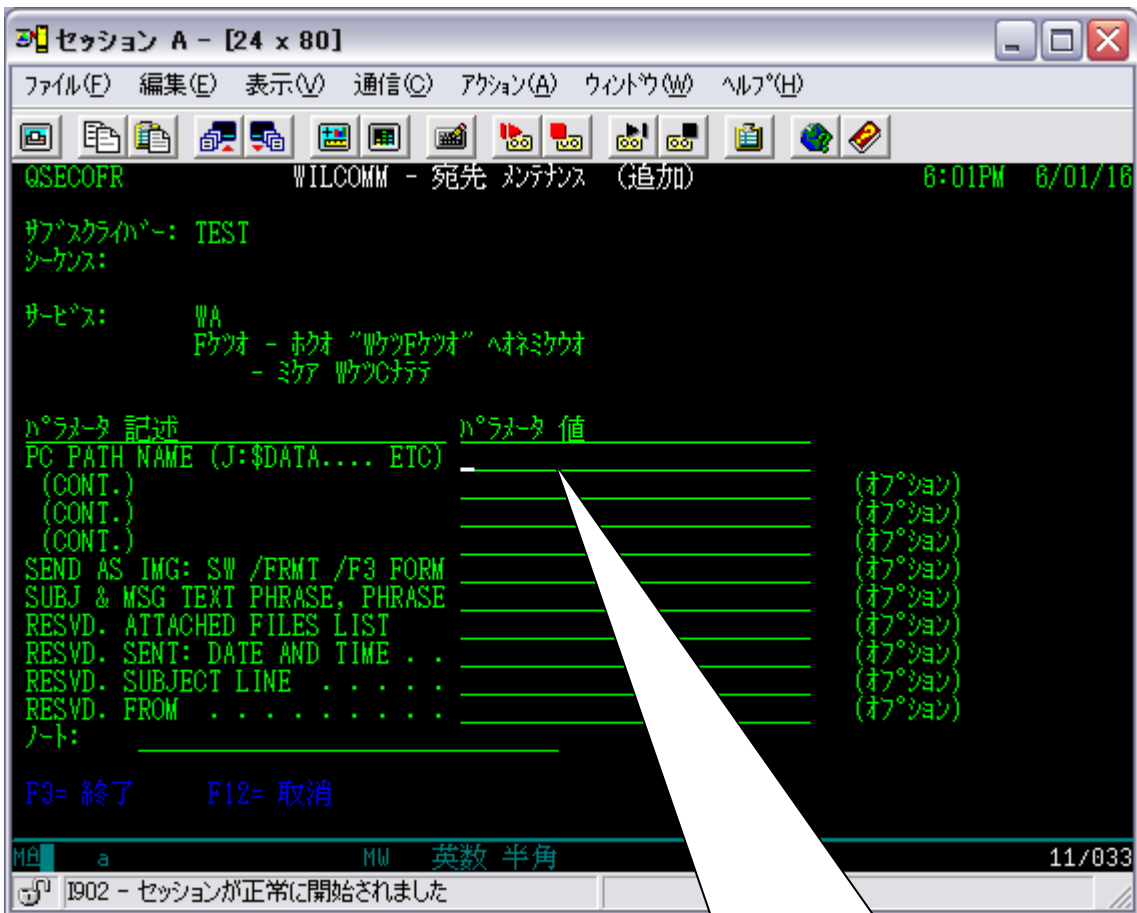
以下の画面が表示されます。

前画面の選択項目“WD”(予定する OUTQ で複数の配信方法が混在する場合)選択の場合



半角文字の文字化けは英小文字ですので IBM 製エミュレータの場合、Ctrl + F3 で表示を切り替えてください。

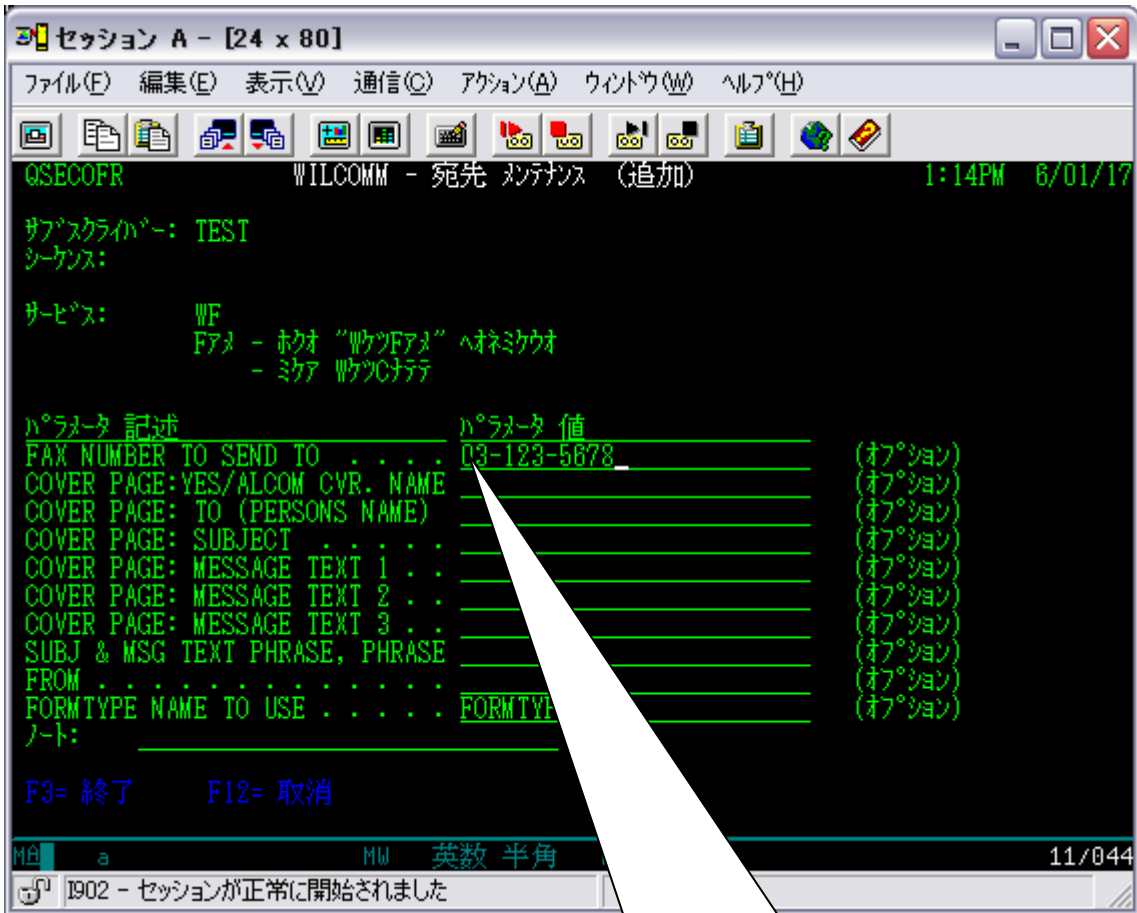
前画面の選択項目“WA”(ファイル保管する場合)選択の場合



PC PATH NAME にファイルの保管先となるパス名を入力します。
PC PATH NAME 欄以外、入力はありません。

半角文字の文字化けは英小文字ですので IBM 製エミュレータの場合、Ctrl + F3 で表示を切り替えてください。

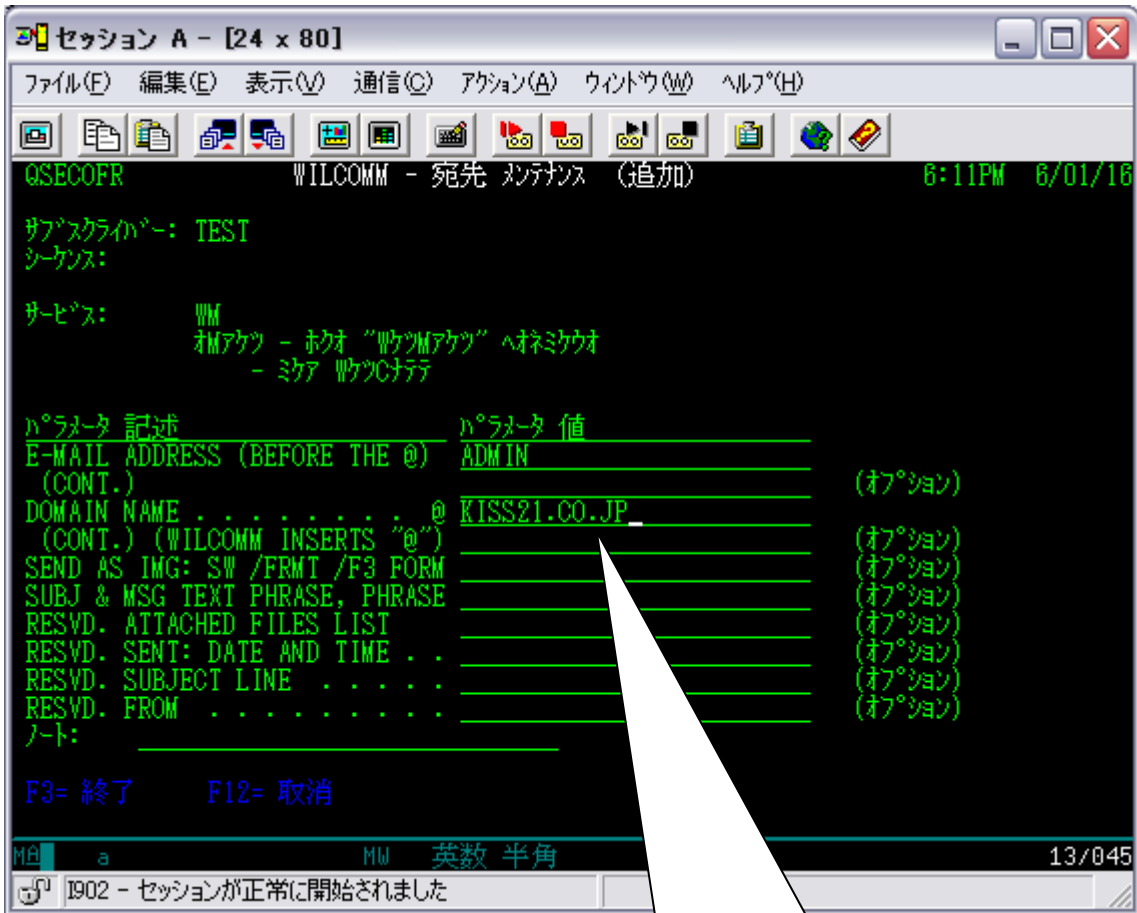
前画面の選択項目“WF”(FAX 配信の場合)選択の場合



FAX NUMBER TO SEND TO に送信先の FAX 番号を入力します。
FAX NUMBER TO SEND TO 欄以外、入力の必要ありません。

半角文字の文字化けは英小文字ですので IBM 製エミュレータの場合、Ctrl + F3 で表示を切り替えてください。

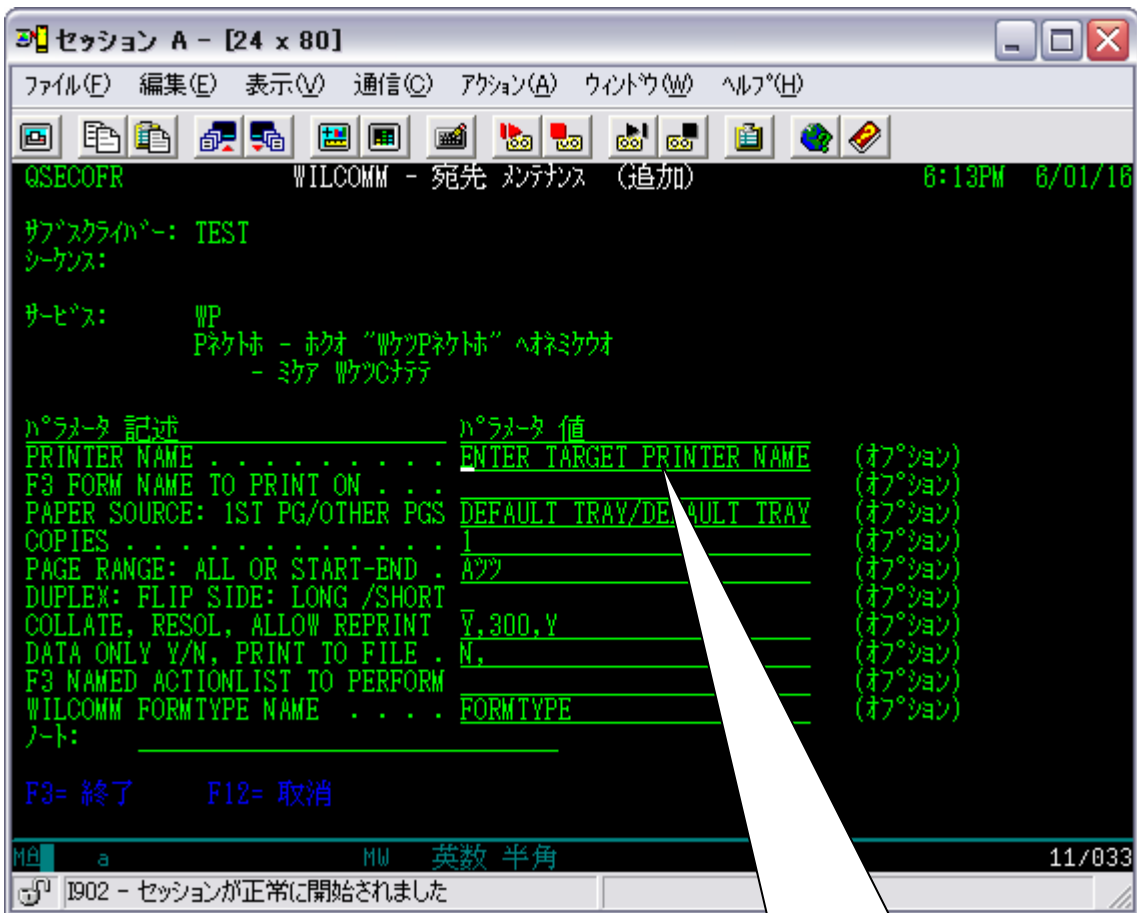
前画面の選択項目“WM”(Mail 配信の場合)選択の場合



送信先のメールアドレスのアカウント部 (@ マークの左側) を E-MAIL ADDRESS(BEFORE THE @)に、ドメイン部 (@マークの右側) を DOMAIN NAME に入力します。(画面入力例参考)

半角文字の文字化けは英小文字ですので IBM 製エミュレータの場合、Ctrl + F3 で表示を切り替えてください。

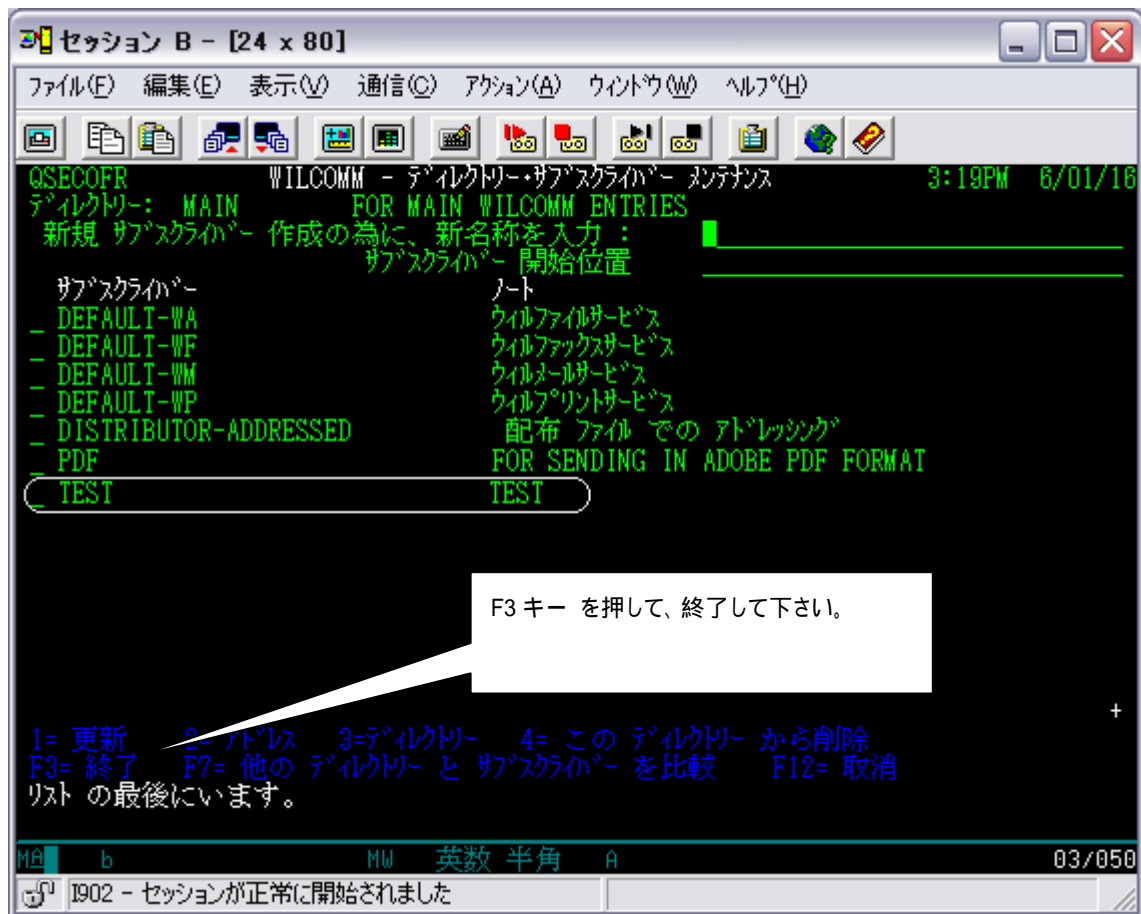
前画面の選択項目“WP”(PC プリンタ出力の場合)選択の場合



プリンタの指定は PC サーバ側の設定で行なうため、ここは入力する必要がありません。

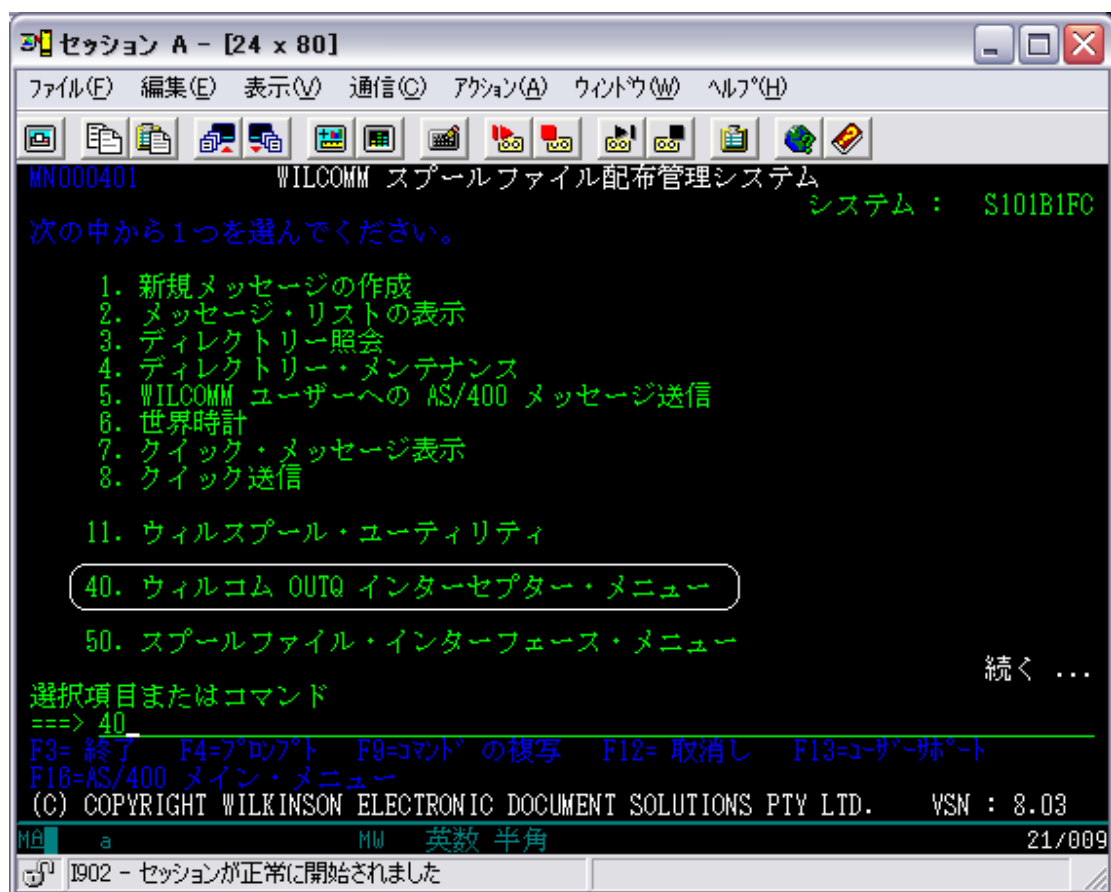
半角文字の文字化けは英小文字ですので IBM 製エミュレータの場合、Ctrl + F3 で表示を切り替えてください。

以下の画面が表示されたら、「サブスクライバー」の登録は完了です。

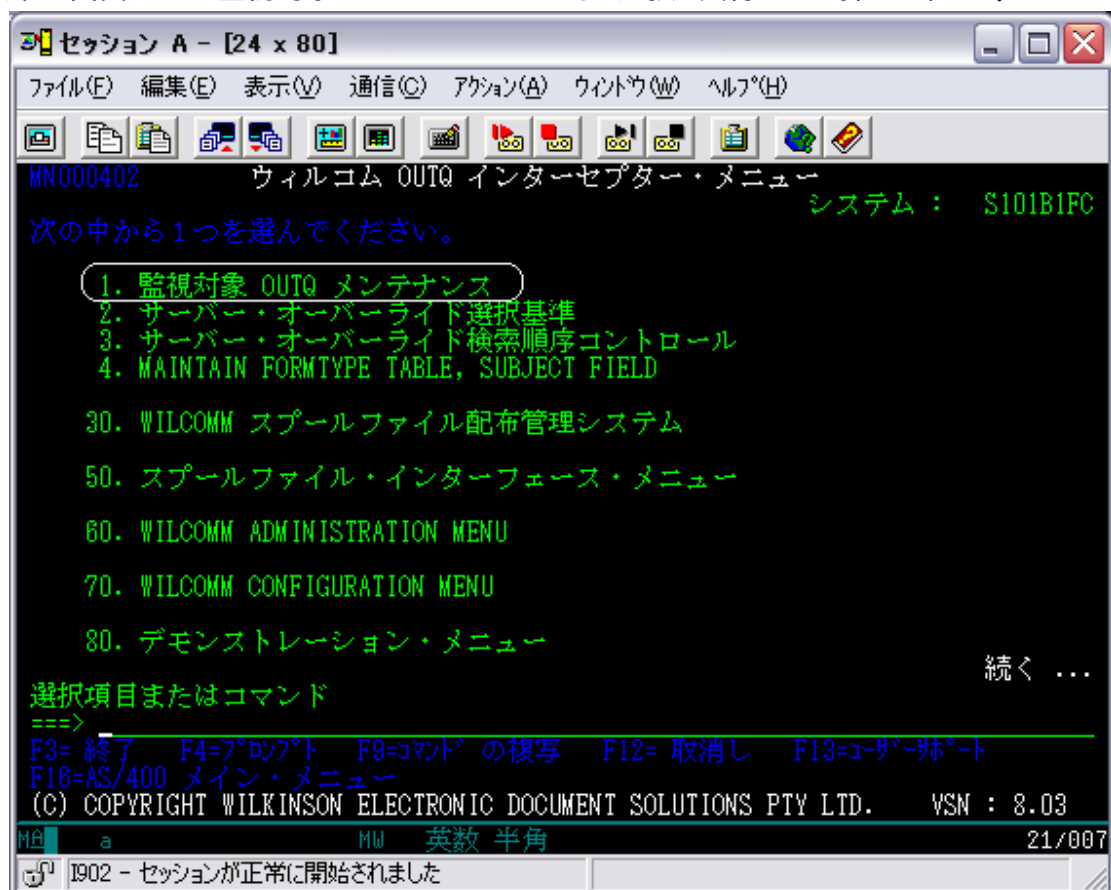


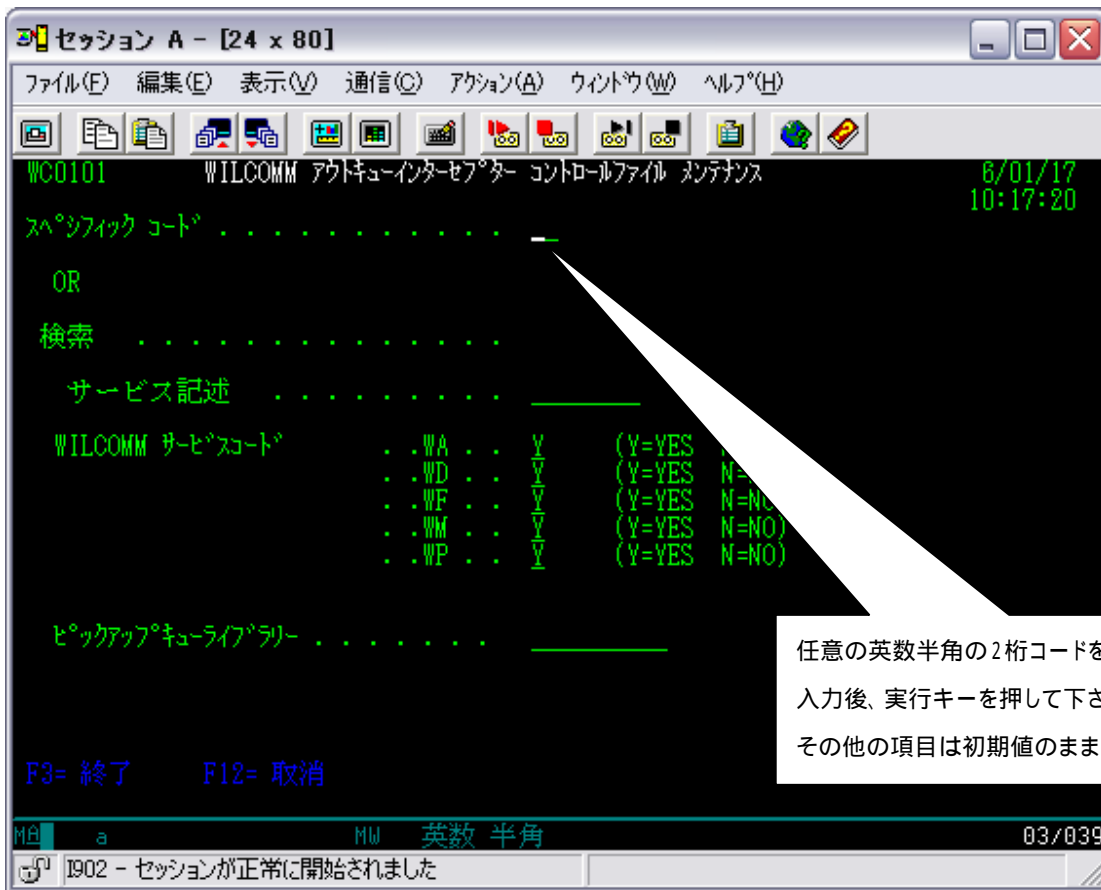
[5. 監視対象 OUTQ の作成]

Wilcomm メインメニューより、「40.ウィルコム OUTQ インターセプター・メニュー」を選択します。



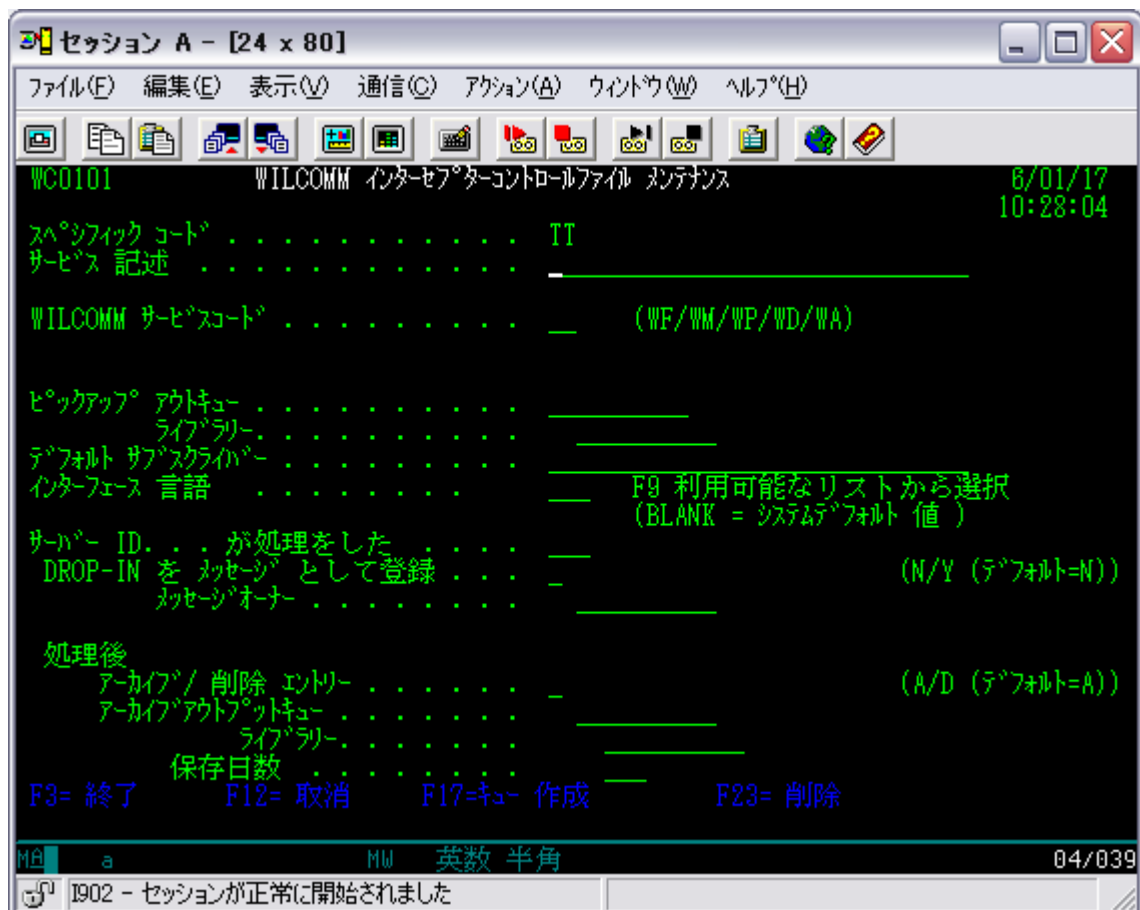
以下の画面から「1.監視対象 OUTQ メンテナンス」を選択し実行キーを押して下さい。



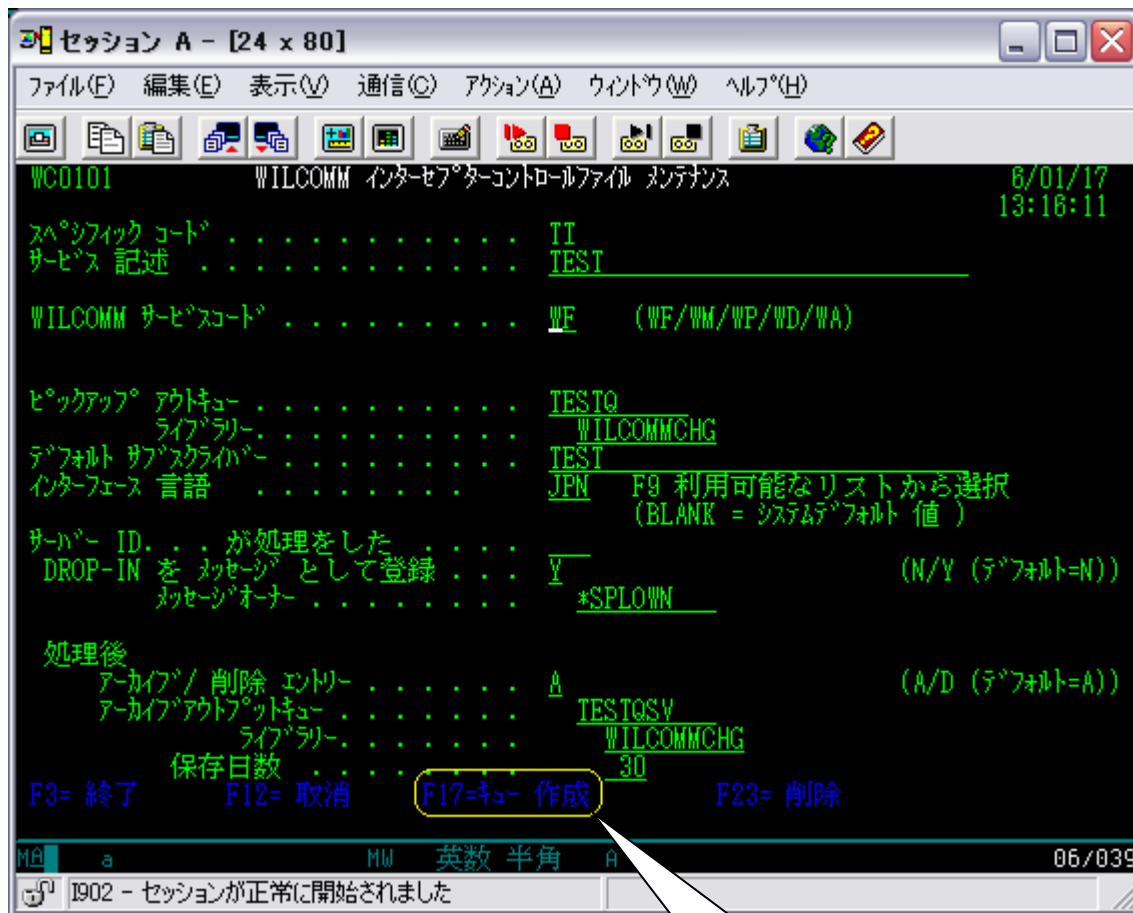


「サブスライバー」とこれから作成する「監視対象 OUTQ」とを1対1で関連付けるコードの事です。
このコードは UNIQUE なコードを指定してください。
「監視 OUTQ」と1対1の関係にある2桁のコードであるとだけ理解してください。

次の画面が表示されます。



入力項目の詳細は、次ページを参照してください。



全ての必要項目の入力後、F17 キーで
監視 OUTQ は作成されます。

[画面入力項目とその内容]

画面項目名	内容
サービス記述	入力後、既登録の監視 OUTQ を一覧表示した場合のコメント部。これから作成しようとしている監視 OUTQ の使用目的等を端的に入力することをお勧めします。使用するサブスクライバ名をも入力しておけば、管理しやすくなるかも知れません。但し、始めの1文字目は必ずシングルバイト文字を使用してください。
WILCOMM サービスコード	「サブスクライバ」で指定したサービスコードを入力します。
ピックアップ アウトキュー	ここで入力した名称の OUTQ が監視されます。
ライブラリー	OUTQ が存在する(作成する)ライブラリを指定します。 管理上 WilComm のライブラリ“WILCOMMCHG”を指定することをお勧めします。
デフォルト サブスクライバ	この「監視対象 OUTQ」用に作成した「サブスクライバ」を入力します。
インターフェイス言語	F9 を押して言語を選択します。 *日本語環境の場合は、「JPN」を選択します。
サーバ ID	任意の英数字3文字を入力します。(例:SV1) iSeries と PC サーバが 1 対 1 構成の環境では表示されません。 iSeries と PC サーバが 1 対 N , N 対 1 , N 対 N 構成の場合に表示されます。 *PC サーバに転送するスプールファイルデータの拡張子となります。監視 OUTQ 単位に PC サーバをコントロールする場合に有効です。
DROP-IN をメッセージとして登録	送信状況を確認する照会画面(メッセージリスト)での表示の有無を指定します。デフォルト値 N は、送信状況の画面照会ができません。配信管理表示するために Y を指定することをお勧めします。
メッセージ オーナー	送信状況を確認する照会画面(メッセージリスト)データを作成する場合のオーナーの指定です。メッセージリストはスプールを生成したオーナー単位に表示するのが基本です。つまり自分で処理したものは自分で管理するという原則です。*SPLOWN を指定することで、スプールを生成した作成者用のメッセージリストが作成されます。 管理上 *SPLOWN をお勧めします。
アーカイブ/削除エントリー	ピックアップ アウトキューで処理したスプールファイルを送信処理後に他の OUTQ で保管するか否かを指定します。 保管するために A を指定し、送信処理後のスプールは保管することをお勧めします。
アーカイブアウトプットキュー	処理後のスプールファイルを保管する為の OUTQ 名を入力します。 上記ピックアップ アウトキューで入力した OUTQ 名の後に SV (SAVE の意)を付けると管理しやすいかもしれません。

ライブラリー	<p>処理後のスプールファイルを保管する為のOUTQのライブラリを指定します。</p> <p>管理上 WilComm のライブラリ“WILCOMMCHG”を指定することをお勧めします。</p>
保管日数	<p>スプールファイルをアーカイブアウトプットキューで保管する場合の保管日数を指定します。</p> <p>1～999 まで入力可能で、999 を入力した場合は削除されません。</p> <p>指定した日数を経過したスプールファイルは、ウィルコムのパージ処理にて自動的に削除されます。</p>

次の画面が表示されたら完了です。

セッション A - [24 x 80]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 通信(C) アクション(A) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

WILCOMM アウトキューインターセプター コントロールファイル メンテナンス 6/01/17 10:17:20

スペシャルフィック コード

OR

検索

サービス記述

WILCOMM サービスコード	WA	Y	(Y=YES N=NO)
	WD	Y	(Y=YES N=NO)
	WF	Y	(Y=YES N=NO)
	WM	Y	(Y=YES N=NO)
	WP	Y	(Y=YES N=NO)

ピックアップキューライブラリー

F3= 終了 F12= 取消

この画面に戻りましたら「監視対象 OUTQ」の作成が完了した事になります。
F3 キーで終了して下さい。

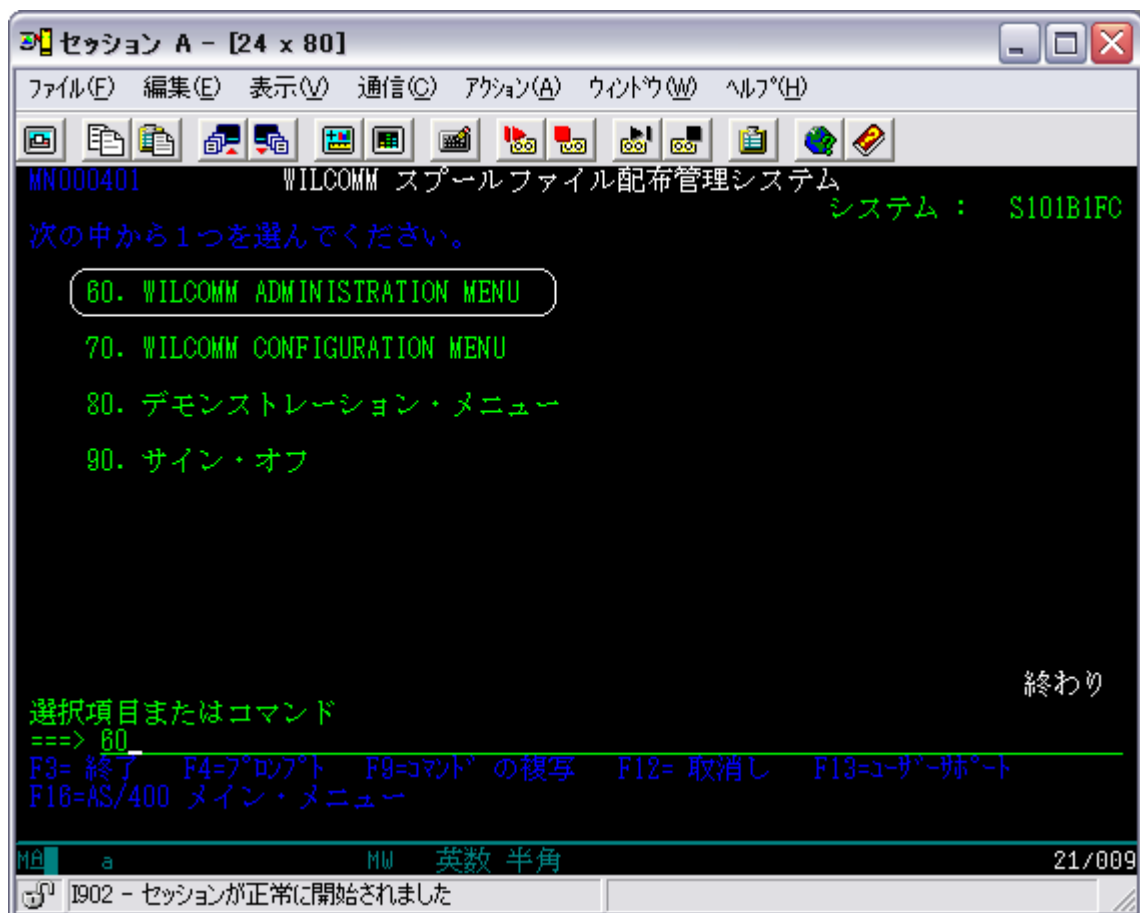
MA a MW 英数 半角

I902 - セッションが正常に開始されました

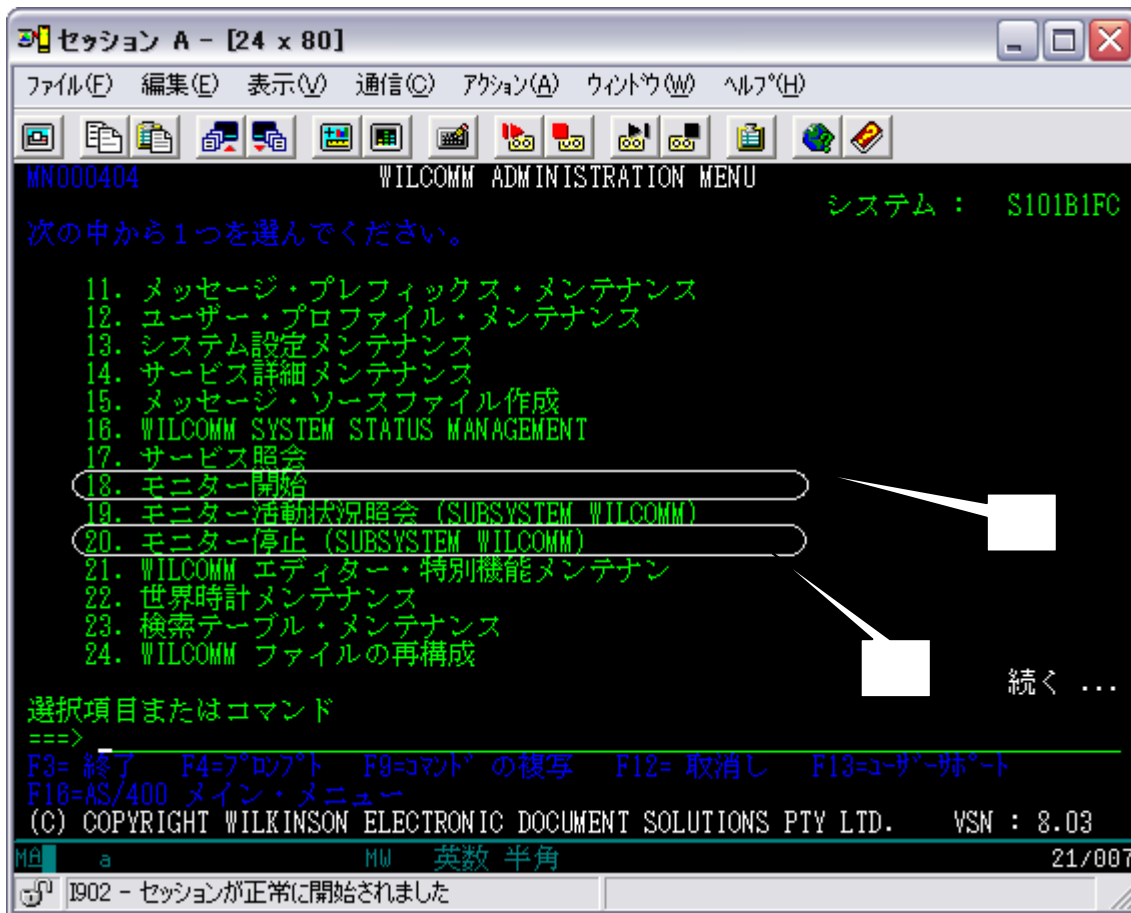
OUTQ : WILCOMMCHG/TEST 及び WILCOMMCHG/TESTQSV が作成されていることを確認してください。

[6. 監視対象 OUTQ 作成の確認]

作成した「監視対象 OUTQ」を処理可能な状態にする必要が有ります。Wilcomm メインメニューで次ページキーを押して、次の画面を表示し「60.WILCOMM ADMINISTRATION MENU」を選択します。



次の画面の「20.モニター停止 (SUBSYSTEM WILCOMM)」を実行し、ウィルコムを一旦停止します。



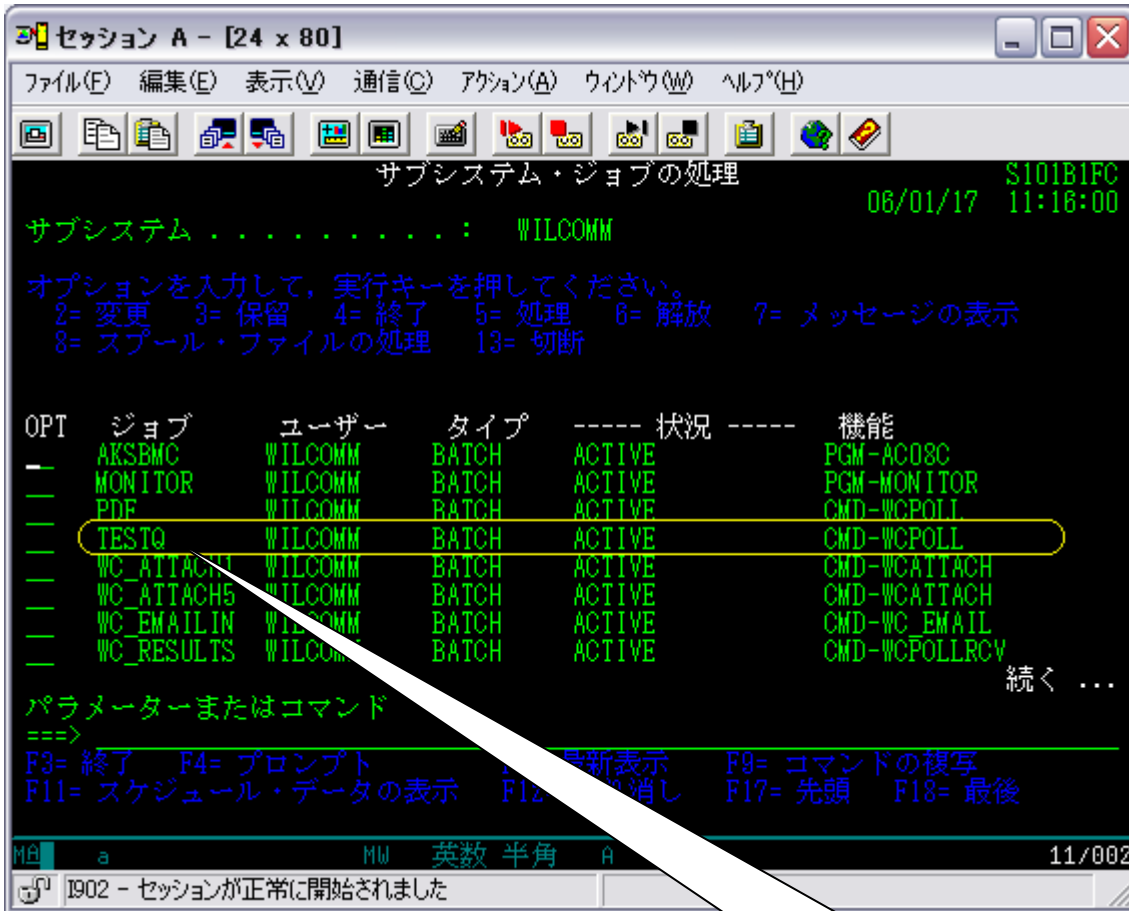
「20.モニター停止 (SUBSYSTEM WILCOMM)」を実行すると、次の画面が表示されます。

必ず、オプション = “*NORMAL”、遅延時間 = “*DEFAULT” で実行して下さい。



停止後、「18.モニター開始」を実行し、再起動します。

「19.モニター活動状況照会 (SUBSYSTEM WILCOMM)」を実行して表示される画面に、作成した「監視対象 OUTQ」と同名のジョブが起動していることを確認してください。



監視対象 OUTQ と同名ジョブの起動が確認できましたら、OUTQ の作成は正常です。

[7. 監視対象OUTQ動作確認]

ここでは、作成した監視対象 OUTQ に実際にスプールファイルを投入し、動作が正常であるか否かを確認します。

PC サーバ側のウィルコムは停止した状態にします。

この状態で監視対象 OUTQ にスプールファイルを投入しますと、PC サーバ側でネットワークドライブとして iSeries に接続している Iドライブに処理されたスプールファイルが作成されます。

作成されるファイルは、PC サーバ側のウィルコムが起動していると、PC サーバ内に受け取ってしまいますので、ここではあえて PC サーバ側ウィルコムを停止した状態で確認することにします。

作成されたファイルは、「メモ帳」等のテキスト・エディタで開くことができますので、内容についても確認することにしてしよう。

iSeries のコマンドラインで以下を実行します。

DSPLIBL OUTPUT (*PRINT)

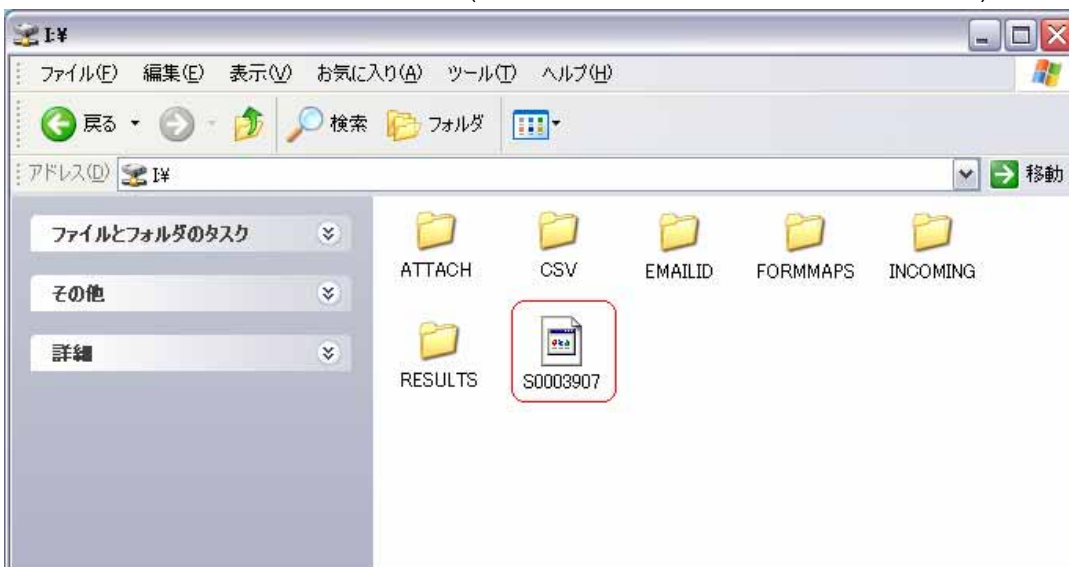
ライブラリーリストが印刷されますので、このスプールファイルを作成しました監視対象 OUTQ に投入してください。

WRKOUTQ OUTQ(WILCOMMCHG/TESTQ) を実行して投入したスプールファイルの有無を確認します。

WRKOUTQ OUTQ(WILCOMMCHG/TESTQSV) を実行して で処理されたスプールファイルが保管されていることを確認します。

*確認できましたら、iSeries 側の処理は終了したことになります。この時点で PC サーバ側に転送するためのファイルが作成されているはずですが。

PC サーバ側から Iドライブを参照します。(Sxxxxxxx のファイルの有無を確認します)




```

S0003907 - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
;<ADR1>=03-123-5678
ORIGIN: <-3- MSG03692 TZ
;<ADR2>= FORMTYPE
;<DATA> FORMAT=SSSL
001 5722SS1 V5R3M0 040528 ライブラリーリスト 6/01/17 13:20:04 s%-c? 1
1
1 ASP
1 [bホ*]ホ* 装置 テキスト記述
1
1 WILQ2962 SYS WILCOMM JAPANESE LANGUAGE SUPPORT V8.00+
1 QSYS SYS システム・ライブラリー
1 QSYS2 SYS CPI のシステム・ライブラリー
1 QHLP SYS
1 QUSRSYS SYS System Library for Users
1 WILCOMM PRD WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
1 WILCOMM CUR WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
1 WILCOMM USR WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
1 WILCOMM USR WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
1 QGPL USR GENERAL PURPOSE LIBRARY
1 QTEMP USR
1
1 ***** リストの終わり *****
;<DATAEND>
;<ATTRIBUTES>
TRANSACTION=QPRTLIBL 000040QPADEV0002QSECOFR 896047
OUTQ=WILCOMMCHG/TESTQ
OUTQLIB=WILCOMMCHG
OUTQNAME=TESTQ
RECORDLEN=132
PRIORITY=
FILE=QPRTLIBL
FILENBR=000040
JOB=QPADEV0002
USER=QSECOFR
JOBNER=896047
FORMTYPE=*STD
USRDTA=MSG03692
WCUSRDTA=
SPFDATE=20060117
SPFTIME=132004
STATUS=*READY
FILEAVL=*FILEEND
HOLD=*NO
SAVE=*NO
TOTALPAGES=000000001 0000001 0000001
SIPOLLNER=S0003907
SERVICECODE=WF
SPECIFICCODE=TT
LANGCODE=JPN
;<ATTRIBUTESEND>

```

↑ドライブに作成されたファイルをメモ帳等のテキスト・エディタで開いて見ます。

赤枠部 は、監視対象 OUTQ:WILCOMMCHG/TESTQ の作成時に指定したサブスクライバ:TEST に指定した宛先です。(ここでは FAX 番号:03-123-5678 を指定した例です。) <ADR1>

青枠部 は、スプールファイル本体です。 <DATA> から <DATAEND> まで。

緑枠部 は、スプールファイルの属性項目です。赤線部は監視対象 OUTQ:WILCOMMCHG/TESTQ の作成時に指定したスペシフィック・コードです。 <ATTRIBUTES> から <ATTRIBUTESEND> まで。

赤枠部及び緑枠部の情報を PC サーバは受け取ることで、iSeries からどのようなスプールファイルが転送されてきたかを認識することができます。PC サーバ側では、これらの情報をもとに受け取ったスプールファイルをどのような方法 (Mail/FAX/Print/File) で、何処へ配信するかの定義を作成します。(Lesson-4)

Lesson-3 では、iSeries に作成した監視対象 OUTQ にスプールファイルを投入すると、上記ファイルが作成されることまでを理解してください。

MEMOREX SUPPORT

MEMOREX サポートサイト:



<http://as.memorex.co.jp/support/agreement/wilsupport.html>

ユーザ名、パスワードは SE サポート契約書 No. です。
全桁半角大文字

お問合せ先:

MEMOREX AN サポートセンター

[サポート時間帯]

月曜日～金曜日 9:00～17:00 (祝祭日年末年始は除く)

緊急のトラブル以外は、メールでお願いしております。
メールは 24 時間受け付けております。

E - m a i l : an_support@kel.co.jp

TEL/FAX : 03-5777-2533